

まぼろしの詩 あしたの詩



日本作詩家協会年刊詩謡集

1976年版

詩人の詩と詩人の言

日本作詩家協会年刊詩謡集

1976年版

序文

藤浦 洸

孫が遊びにくると、すぐ私の部屋に上って来て、机の前にいる。私の膝にすわって、そこにある紙に絵を描くのである。まだ文字を知らない孫の、せいっぱいの創作意欲であると思う。人間は、こうした創作意欲を本能的に持っているといっている。

その意欲が、それぞれの立場で、発揮されているのである。一切の美術、文学、その他すべてのものがそうである。作詩家協会の会員みなさんは、文字によって、その意欲を発揮しているわけである。それが一堂に集って、すぐれたものを、仲よく競うということは、すばらしいことである。みんな友達である。仲よく集って、いつまでも、これをつづけよう。

この「きょうの詩、あしたの詩」は、そうした友情の全集である。オリンピックではないが、まづ「参加することに意義がある」のである。そして、これがお互いの錬磨の材料にもなるのである。

(日本作詩家協会会長)

もくじ

序文……………	藤浦	洸……………	一
島の女……………	アベ・イチロー……………		一六
少林寺拳法……………	あい しゅんすけ……………		一九
自然は誰のもの……………	あかはた 元康……………		二〇
花はくちづけが好き……………	相田 八郎……………		二三
雪 あかり……………	青木 三郎……………		二三
船を待ってたハナ子……………	秋田 泰治……………		二三
白ぼらの謎……………	秋田 三枝……………		二四
悲しい人生……………	明鳥 秀太郎……………		二五
ひとりぼっちの女……………	浅熊 幸……………		二六
風立ちぬ……………	浅野 國雄……………		二七
ゆるしてネ……………	浅野 哲秋……………		二八
思いで舟……………	芦田 しげる……………		二九
裏町……………	飛鳥井 芳朗……………		三〇
思い出が泣いている町……………	跡見 曾和佳……………		三一

酔いどれキリギリス	鮎川	公正	三
空 部 屋	荒川	利夫	三
恋ざんげ	荒木	忠雄	三
生命の恋が終るとき	有	美子	三
ひとりぼっちの歌	淡島	千佳夫	三
愛の終り	いけや	かつとし	三
片割れ心中	いとう	恵みこ	三
夢を見ないか	いばら	城	三
遭 難	井田	誠一	三
恋 地 獄	五十川	式部	三
雷電の岬のひとよ	伊丹	将人	三
雪国の女	伊藤	一生	三
寒くなるわ	伊予	圭相	三
恋は死にました	飯塚	義美	三
海	池上	信	三
下町の露地はカタカナ	池田	充男	三
らくがき	石	一十	三
雨・女・ブルース	石川	泰久	三
女の望郷	石田	健次	三
「遠太」押上一丁目	石本	美由起	三
山 峡 の 町	市川	武志	三
裏 町 演 歌	稲葉	爽秋	三
哀しみ発不幸行き	猪俣	泰彦	三

当世嘆き節……………	茨	つとむ……………	五
ネオン芝居……………	岩尾	みつよし……………	五
川は泣いてる……………	岩崎	吉太郎……………	七
八百屋お七……………	岩瀬	ひろし……………	六
それでも地球はとまらない……………	宇山	清太郎……………	五
女の悔やみ……………	上野	たけし……………	六
遊侠の花……………	植田	竹雄……………	六
京都みれん……………	白井	ひさし……………	六
結婚通知……………	詩川	しぐれ……………	六
花びえの夜……………	宴	ゆり……………	六
サハラ旅愁……………	梅田	幸三……………	六
古い口紅……………	江島	景子……………	六
お前が愛しい……………	海老沢	孝一……………	六
恋のアムステルダム……………	遠藤	英一……………	六
美人エレジイ……………	おいだ	みのと……………	六
ぶるーす……………	おち	としこ……………	七
歳……………	小川	淳……………	七
かもめ……………	小黒	恵子……………	七
甲州子守唄……………	小俣	ハチロウ……………	七
キャバレーの女……………	大久保	正弘……………	七
かんかん小唄……………	大坂	秀次郎……………	七
クラブ「屋台」……………	大澤	昭男……………	七
恋って素晴らしい……………	大竹	ゆきを……………	七

若者よ……………	大野	いくを……………	㊦
北国……………	大橋	哲郎……………	㊦
恋どれい……………	大森	富士子……………	㊦
都会のすずめ……………	大屋	哲夫……………	㊦
ひとりごとのブルース……………	大渡	弘良……………	㊦
流浪……………	逢坂	豊……………	㊦
大人への旅立ち……………	岡本	和子……………	㊦
北のふる里……………	冲永	良一……………	㊦
北国でひとり……………	荻原	秀夫……………	㊦
銀座のお蔭……………	奥野	椰子夫……………	㊦
表札……………	折戸	勝史……………	㊦
女うらぶれ怨歌……………	かわうち	登……………	㊦
女なみだの子守唄……………	かわかみよし	のぶ……………	㊦
僕のあやまち……………	加藤	完二……………	㊦
心にしみる愛……………	加藤	省吾……………	㊦
ぶらり寂しく……………	角海	夜詩次……………	㊦
開店通知……………	門井	八郎……………	㊦
生きる……………	金井	幸穂……………	㊦
つめたい炎……………	兼崎	康美……………	㊦
恋のピエロ……………	鎌田	まさる……………	㊦
ほんとの他人になりました……………	川合	秀夫……………	㊦
石で追われて……………	河井	哲治……………	㊦
星の瞳になった人……………	木谷	鴻治……………	㊦

風紋の女	菊地	英夫	101
故郷むらさき	北條	新太	102
昭和開拓節	北村	三色	103
それぞれの暮し	九条	高嶺	104
愛の終宴	工藤	りつお	105
傷恋記	黒白	ミノル	106
リクエスト	剣	あざみ	107
恋おんな	ごとう・としのぶ		108
博多女の流れ節	こばやし	克至	109
女の旅路	小口	幸重	110
鹿児島みれん	小嶋	かずひろ	111
別れ	小島	高志	112
流転瞽女	小高	勝義	113
京都三年坂	小谷	健一	114
沖繩の星	小林	金次郎	115
夜雨のおんな	木立	雄幸	116
桔梗の花	古神子	民雄	117
新宿おんな	古頃	正章	118
いまは銀座で生きてます	五条	ユキシロ	119
女の小部屋	高上	あゆむ	120
もう来ないのね	河野	充伸	121
愛の通夜	越砂	温夫	122
美しいうちに愛して	越野	みのる	123

わ た し	紺野	ただし	二四
名取川慕情	サトウ	幸史	二五
愛のシュプール	さきやま	みちお	二六
私がにくい	さとう	いくこ	二七
旅ならブルース	さとう	ひでを	二八
新宿だって生きられる	さとの	深花	二九
花 瓶	佐久間	常夫	三〇
さすらい坂	佐東	たどる	三一
不良っぼいあの子	佐藤	進	三二
尾道おんな	佐藤	正美	三三
娘 の 頃	佐藤	木章	三四
黄 昏	佐野	和子	三五
新宿はあたいのふるさと	財前	吾郎	三六
錦 鯉 仏 心	斎藤	宗三	三七
生きている	斎藤	ちえ	三八
占って頂戴ね	斎藤	政美	三九
朝はわかれ	坂口	雅輝	四〇
今夜はかわいい女になって	阪口	ふみし	四一
赤いサザンカ	酒井	国雄	四二
歴史のページを新しく	酒井	良之佑	四三
笹 舟	榊原	康司	四四
雪 の 宿	三丁目	高詩	四五
愛に生きる	じゅん	知央	四六

冬の夢……………	四賀	郷子……………	一四
相馬暮色……………	志賀	大介……………	一四
馬鹿たれ自叙伝……………	志摩	勝也……………	一四
面会日……………	清水	千春……………	一五
エリモの霧唄……………	時雨	音羽……………	一五
アルプスの詩……………	斯波	一絵……………	一五
それでいいのか皆の衆……………	紫藤	孝……………	一五
別れ……………	鹿倉	義一……………	一五
手まり唄の頃……………	柴田	よしかず……………	一五
乱暴なあなた……………	島田	和……………	一五
天草松島雅歌……………	島田	馨也……………	一五
立山笠……………	島田	信義……………	一五
時を忘れた女……………	島本	富美子……………	一五
あたしはぶるーす……………	舟	陽子……………	一六
エルムの並木に星が出る……………	周東	敬二……………	一六
惜春……………	白坂	あきお……………	一六
ジャン荘小唄……………	白土	やすじ……………	一六
玲子のすず……………	白水	かおる……………	一六
マニキュア怨歌……………	新條	カオル……………	一六
夕陽に歌う……………	新保	治平……………	一六
夢子という名の女……………	すずき	こういち……………	一六
酒場の隅で……………	砂田	栄一……………	一六
日暮れの詩……………	鈴木	昭一……………	一六

すすきの鞭	鈴木	哲郎	一七〇
雨の神話	鈴木	宗敏	一七一
長岡の夜	鈴木	夜詩夫	一七二
博多抒情	砂見	爽	一七三
別れごころ	角田	摩由子	一七四
桜花かや散りぢりに	関沢	新一	一七五
涙は明日の虹となる	相馬	詩彦	一七六
家庭教師	相馬	日照	一七七
はぐれ花	園田	一俊	一七八
青春芸者	たかぎ	かずお	一七九
おんな川	たなか	ゆきを	一八〇
黒バラの好きな人だった	田中	凡オ	一八一
おけさ恋唄	田畑	しげき	一八二
長府にいます	田村	和男	一八三
開店小唄	田村	みどり	一八四
春に云う	高木	紅陽	一八五
乗換駅	高瀬	臣子	一八六
潮騒	高野	礼子	一八七
別れごよみ	高橋	秀佳	一八八
悲しい恋	高畑	和之	一八九
勝負はこれから	鷹野	学	一九〇
津軽紀行	滝	わたる	一九一
菩薩の花	竹田	勇人	一九二

別れ橋なみだ橋	谷川	まさる	一九三
哀愁童唄	谷田	幸平	一九四
札幌わが恋	玉木	一史	一九五
少年のわたる橋	千葉	幸雄	一九六
東京練馬大劇場	つるぎ	まさる	一九七
新宿ロマン	津田	けんじ	一九八
ぶどう色のメルヘン	塚谷	清一	一九九
たそがれ慕情	筑紫	みなも	二〇〇
十七才の日曜日	土屋	正敬	二〇一
事情	土佐	友和	二〇二
錆びた線路	戸枝	ひろし	二〇三
女の夜曲	遠山	哲哉	二〇四
悶え	富山	紫峰	二〇五
弘前の夜	豊沢	正義	二〇六
そして誰もいなくなった	なかにし	礼	二〇七
ハチ公ハチ公君もだネ	中川	連	二〇八
過疎村の女	中島	清一	二〇九
土方歳三	中野	惣太郎	二一〇
寄っていかない？	中野	芙美世	二一一
愛と死の砂漠	中山	邦雄	二一二
背広	中山	大三郎	二一三
哀恋たそがれ恋しぐれ	中山	二夫	二一四
二人の間	七浦	渚	二一五

大正ボーイは純なもんさ	成瀬	左千夫	三六
おんな星	楠里	晁生	三七
川のほとりに	仁智恵	大造	三八
ふるさとは変った	仁礼	美智雄	三九
恋女房	西川	秀人	三〇
暮坂峠	西沢	爽	三一
そんなあなたが僕は好き	西山	昌子	三三
ふたりの新宿	ねもと・みつや		三三
夜を独りにさせないで	根岸	一男	三四
見えない君と	能勢	英男	三五
不気味な話	はせべ	ゆり	三六
故郷の友よ	はせやま	清美	三七
盃蘭盆の夜	はまだ	ゆきお	三八
好きになったの	長谷川	洋	三九
気まぐれ酒場	橋間	哲也	四〇
むかしの女と呼ばれたい	花村	かおる	四一
一男一女	英	玲二	四二
よろしくな	浜	実	四三
ながさき無情町	浜田	龍郎	四四
人生本通り	林	秀夫	四五
恋の港	原	牧江	四六
勿忘草	伴在	主計	四七
かたくりの花の恋	平井	健一	四八

夜の序曲……………	平川	征儀……………	二二九
愛の終わりに……………	平田	幸子……………	二四〇
雨の日に愛して……………	平山	忠夫……………	二四一
西湖の女……………	広里	多美……………	二四二
女の疲れ……………	富士見	琴流……………	二四三
素敵なデイト……………	傳	祖恭……………	二四四
私は浜っ娘港の娘……………	藤浦	洸……………	二四五
出稼ぎ便り……………	藤沢	ひろし……………	二四六
新舞踊道成寺……………	藤田	鶴之丞……………	二四七
あなたの愛があるかぎり……………	藤原	逸露……………	二四八
夢はいいだろ……………	藤間	哲郎……………	二四九
女の雨……………	藤村	正……………	二五〇
オロロン岬……………	古市	哲夫……………	二五一
男の慕情……………	古野	哲哉……………	二五二
シジフォスの神話……………	ほし	ゆたか……………	二五三
博多恋唄……………	鳳司	哲夫……………	二五四
ふたりで旅にでませんか……………	星合	節子……………	二五五
紙の舟……………	星野	哲郎……………	二五五
恋霧笛……………	細川	憲哉……………	二五七
青い月夜の村はずれ……………	細川	雄太郎……………	二五八
女の街・博多……………	本間	繁義……………	二五九
流れ酒……………	本間	長三郎……………	二六〇
途中下車……………	真弓田	幸一……………	二六一

木洩れ陽の音楽	前島	達夫	三六三
夕月の宿	前田	繁子	三六三
案山子の独り言	前田	利茂	三六四
おしくらまんじゅうの唄	牧	房雄	三六五
親父さん	増子	善典	三六六
三味線ごよみ	松井	由利夫	三六七
津 軽	松浦	志津夫	三六八
人生は旅路	松岡	美勝	三六九
黄 楊 櫛	松尾	照子	三七〇
あなたの四季	松尾	ゆきを	三七一
ふたりの夜明け	松崎	暎子	三七二
みちくさ	松下	しょう	三七三
草 笛	松平	史紀	三七四
流れる星に	松本	英祐	三七五
別離のつばやき	松本	摂子	三七六
酔いどれ女	松本	信夫	三七七
夜の酒場の身の上話	松原	路夫	三七八
原生花園旅情	松山	幸二	三七九
家庭教師	みずき	あみ	三八〇
別れどき	みやこ	こうじ	三八一
愛ある別れ	三上	博司	三八二
青春ジェット	三島	迪之助	三八三
愛のかげり	三谷	ケイ	三八四

ひまわりさん	三益	武司	二五五
流れ蝶	三宅	立美	二六六
ある愛の詩	美山	鋭太郎	二六七
暖簾下町恋灯り	水野	甚太郎	二六八
老人死刑囚ブルース	水野	徳好	二六九
あなたはパパの匂い	南	早苗	二七〇
あんずの里から	南	由紀	二七一
片羽鳥	峰	よしを	二七二
鼠でござんす	宮沢	章二	二七三
風と海と人と	宮田	隆	二七四
女心	宮中	雲子	二七五
恋の眠り姫	都城	光	二七六
マイ・リズム・タンゴ	むらやま	たけし	二七七
浜えんどう	村上	文恵	二七八
移り雨	村田	安広	二七九
真夜中のつぶやき	村山	二永	二八〇
あなたのため	室屋	安美	二八一
倉敷で逢いたい	室山	多香史	二八二
帰郷	持田	三郎	二八三
たそがれにつつまれて	森	けいこ	二八四
男と女の仲だもの	やまうち	亮	二八五
窓硝子の向こうに	やまだ	りゅう	二八六
名刺	矢ヶ部	信次	二八七

愛は消えても……………	柳	英二……………	三〇八
君は能登路の心妻……………	山上	雅人……………	三〇九
横丁酒場……………	山口	純……………	三二〇
望郷の家……………	山口	洋子……………	三二一
素敵な他人……………	山下	智子……………	三二二
花のさだめ……………	山田	晃義……………	三二三
女の部屋……………	山中	まり……………	三二四
里の女……………	山村	くみ……………	三二五
たそがれのボサノバ……………	山本	志げみ……………	三二六
背なか……………	山本	哲生……………	三二七
鶴女房……………	夢	虹二……………	三二八
恋の小包……………	吉田	哲也……………	三二九
俺が不幸にした女……………	礼	恭司……………	三三〇
雨の野外音楽堂……………	六条	宙……………	三三一
バーのマッチ……………	わたなべ	ちかお……………	三三二
風……………	わたべ	まちこ……………	三三三
聖橋……………	渡辺	治……………	三三四
朝陽をあびて……………	渡辺	和於……………	三三五
わが胸のこのさすらいは……………	渡辺	千楨……………	三三六
女の墓場道……………	渡辺	久士……………	三三七
あとがき……………	井田	誠一……………	三三九

題字 西沢 爽
表紙 荒船利雄